



一部建設業改善傾向を示すも 各業種依然として足踏み傾向

平成 30 年 4 月～6 月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

平成30年4月～6月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率72.5%

【主要な表現について】

○業況判断:調査対象企業が自らの業績に下した判断。 ○DI値:(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合)
悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1):全産業での業況は、DI値▲9.2で前回(H30年1月～3月)より6.6ポイント改善。今回は建設業、卸売業が改善傾向、他業種は足踏み。依然として悪化傾向の小売業では客数・客単価の悪化があげられ、今後の課題として消費者ニーズの変化への対応があげられました。

全産業売上高の推移:前回▲12.8ポイント(H30年1月～3月)から5.9ポイント改善しました。

建設業改善傾向、他業種は依然として減少・悪化傾向を示しました。

全産業資金繰りの動向:前回▲4.4ポイント(H30年1月～3月)から1.2ポイント悪化しました。

特に材料仕入の高騰、老朽化による設備導入などの課題への対応が多くあげられました。

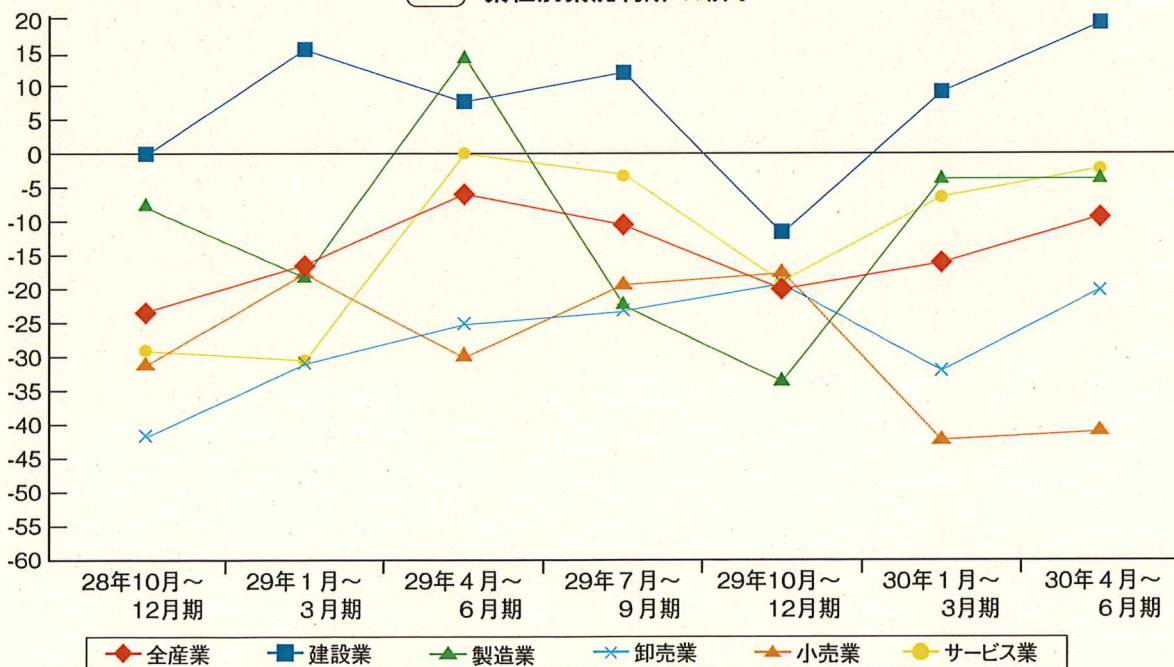
全産業採算の動向:前回▲20.6ポイント(H30年1月～3月)から3.8ポイント改善しました。

全体統計では改善傾向を示したが、建設業を除く他業種はいずれも減少・悪化傾向を示しました。

全産業雇用人員の動向:前回0.8ポイント(H30年1月～3月)から2.2ポイント改善しました。

全体統計では改善傾向を示したが、各業種いずれも熟練従業員の確保が課題としてあげられました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課第一課 TEL: 054-641-2000